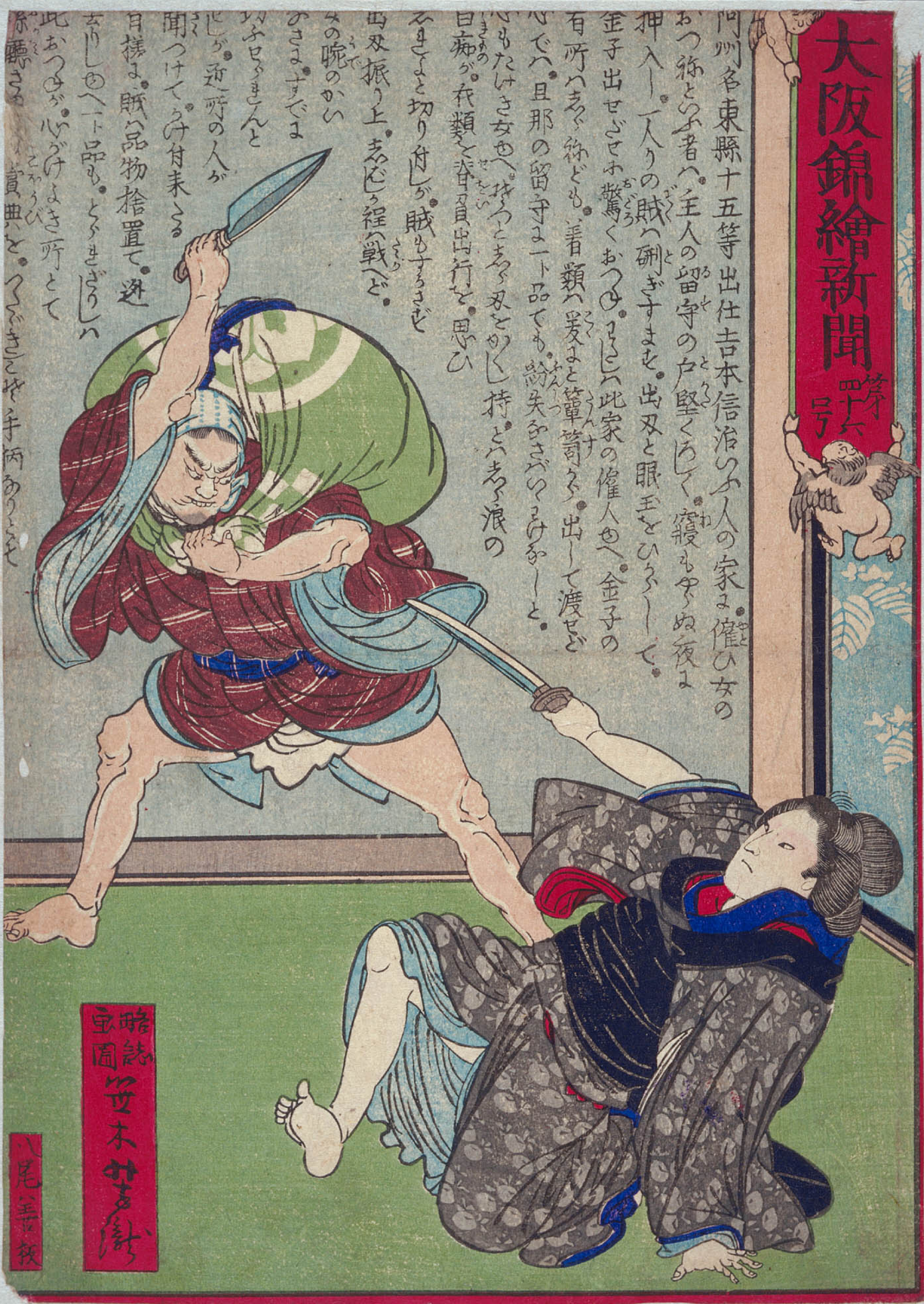
大阪錦繪新聞

第四十六号



阿州名東縣十五等出仕吉本信治の下人の家に。傭ひ女のおつ祢との者ハ。主人の留守の戸堅くさして。寝もやらぬ夜に押入し。一人りの賊ハ研ぎすまし。出刃と眼玉をひからして。金子出せざせに驚くおつ祢。ことにハ此家の傭人なれバ。金子の有所へ志らず祢ども。着類ハ爰にと簞笥から。出して渡せど心でハ。旦那の留守に一ト品でも。紛失させてハすまぬと。心もたけき女なれバ。持つと志らず刃をかくし持。どんな浪の白痴が。衣類を盗賊出行を。思ひならぬと切り付しが。賊もさるもの出刃振り上。志ばしの程ハ戦へど。女の腕のかひなさに。すでにあやふかりしと叫しが。近所の人が聞つけて。かけ付来る月様に。賊ハ品物捨置て。逃去りしゆへ一ト品も。とられざりしハ此おつ祢が。心がけよき所とて縣廳より褒美に賞典を。下されしこそ手柄ありけれ

略誌 画圖 笠木 芳瀧

八尾善 板

大阪錦絵新聞46号　文庫10-8065-13
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library